

保護者の皆様へ

DPT-IPV-Hib（ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ・インフルエンザ菌b型）予防接種

～予防接種に欠かせない情報です。接種の前に必ずお読みください～

ジフテリアは、ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。感染は主にのどですが、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病2～3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。

百日せきは、百日せき菌の飛沫感染で起こります。普通のカゼのような症状ではじまります。続いてせきがひどくなり、顔を真っ赤にして連続的にせき込むようになります。せきのあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。熱は通常出ません。乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなったり（チアノーゼ）けいれんが起きることがあります。肺炎や脳症などの重い合併症を起こします。乳児では命を落とすこともあります。

破傷風は、ヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために筋肉のけいれんが起こり、病状が進行し治療が遅れると死亡することもあります。患者の半数は本人や周りの人では気がつかない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。

ポリオは、「小児マヒ」とも呼ばれ、ポリオウイルスが人の口の中に入って、腸の中で増えることで感染します。増えたポリオウイルスは、再び便の中に排泄され、この便を介してさらに他の人に感染します。

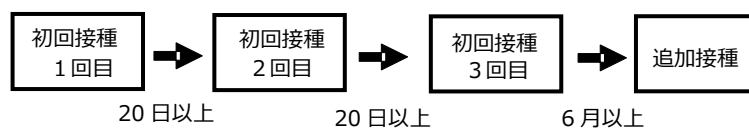
ポリオウイルスに感染しても、多くの場合、病気としての明らかな症状はあられずに、知らない間に免疫ができます。

しかし、腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足にマヒがあらわれ、そのマヒの一部が一生残ってしまうことがあります。

Hib（インフルエンザ菌b型）は、乳幼児の化膿性髄膜炎、敗血症並びに喉頭蓋炎などの重い感染症の原因となっています。乳幼児の髄膜炎を起こす細菌はいくつかありますが、その6～7割程度をHibが占めていると言われています。日本では年間400人の乳幼児が発症していて、その過半数が生後4か月から1歳までにかかっています。感染初期には風邪などと区別がつかず、早期に診断するのはとても難しい病気です。また、近年には抗生物質の効かない菌（耐性菌）が増えており、治療が困難になってきています。（※注）ヒブは冬に流行する「インフルエンザウイルス」とは全く別のものです。

1 対象年齢と受け方

2 か 月	6 か 月	9 か 月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳
初回3回			追加1回						
【定期予防接種の対象者】				生後2か月～7歳6か月に至る前日					
【標準的な接種期間】				初回接種 生後2か月～7か月に至る前日 追加接種 初回3回終了後6か月～18か月に至るまでの期間					

【接種間隔】

※1回0.5mlずつ接種、皮下又は筋肉内に接種

2 使用ワクチン

既存の4種混合ワクチン（百日せき、ジフテリア、破傷風、不活化ポリオ混合ワクチン）の抗原成分に、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型(Hib)の抗原成分を加えた5種混合ワクチンです。現在、国内には2種類の5種混合ワクチンが供給されています。

裏面もお読みください

3 DPT-IPV-Hib ワクチンの副反応

DPT-IPV-Hib ワクチンの臨床試験において、承認時までには得られた主な副反応は、接種部位の副反応として注射部位紅斑、注射部位硬結、注射部位腫脹など、注射部位以外の副反応として発熱、気分変化、下痢、鼻汁、咳、食欲減退、発疹、咽頭紅斑、嘔吐などがみられました。

また、重大な副反応としてショック、アナフィラキシー様症状（頻度不明）、血小板減少性紫斑病（頻度不明）、脳症、けいれんなどが添付文書に記載されています。

また、重い副反応はなくても、お子さんの機嫌が悪くなったり、はれなどが目立つときなどは、接種医に相談してください。

4 接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱している方（通常は 37.5℃を超える場合）
- ②重い急性疾患にかかっている方
- ③このワクチンの成分によって、アナフィラキシー（通常接種後 30 分以内に出現する、呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方
- ④その他、かかりつけの医師に予防接種を受けない方がよいといわれた方

5 接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ②過去に予防接種で接種後 2 日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ③過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ④過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある方、もしくは近親者に先天性免疫不全症の人がいる方
- ⑤このワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方

6 ワクチン接種後の注意

- ①接種後 30 分間はショックやアナフィラキシーがおこることがごく稀にありますので、医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。
- ②接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③接種後 1 週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ⑤接種当日は激しい運動は避けてください。その他はいつもどおりの生活で結構です。

7 予防接種による健康被害救済について

ワクチン接種により健康被害が発生した場合、厚生労働大臣が予防接種法に基づく定期予防接種によるものと認定したときは、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。